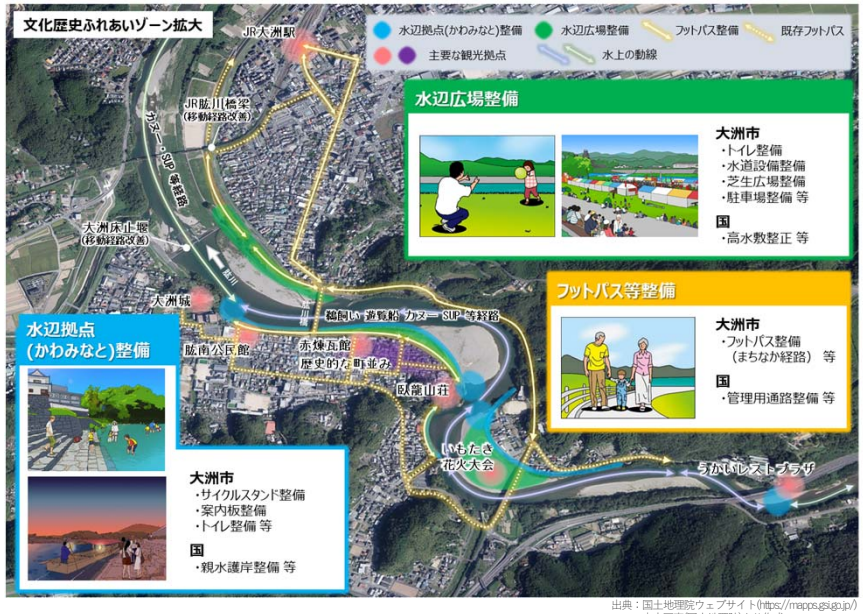
肱川（ひじかわ）かわまちづくり （愛媛県大洲市）

がんばろう！大洲　つなごう肱川

水郷文化とともに、育ちつづける復興かわまちづくり

平成30年7月豪雨からの復興を肱川かわまちづくりで後押しします

- 大洲市中心部の肱南肱北地区を主要拠点として、かつて「かわ」と「まち」をつなぎ、大洲の発展を支えた「かわみなと」を復活させ、人が集い、自然と文化・歴史にふれあえる水辺空間の創出をめざします



出典：国土地理院ウェブサイト(https://mapps.gsi.go.jp/)
空中写真(国土地理院)より作成

文化歴史ふれあいゾーン（大洲市中心部）における整備イメージ

肱川とともに歩んできた大洲の歴史

古くから洪水に悩まされてきた肱川流域

- 肱川は、数多くの支川と合流し大洲盆地を貫流して伊予灘に注ぐ愛媛県一の大河川です
- 大洲盆地は古くから水害が頻発しており、平成30年7月豪雨では甚大な浸水被害をうけ、再度災害防止等に取り組む「肱川緊急治水対策」を進めています

肱川と寄り添いながら育まれた水郷文化

- 明治から大正にかけて、肱川沿いに大小あわせて40あまりの河港が開け200艘以上の川船が置かれ、ゆるやかな流れの肱川は重要な貨物輸送路となっていました
- 大洲は、江戸時代初期まで港を意味する「津」という文字を用い「大津」と表記されており、**「大きな河港（津）」が大洲の地名の由来**といわれています
- 市民の想いから戦後初めて当時の工法・木造で天守閣が復元された肱川の河畔に望む**「大洲城」**、明治の匠が残した数奇に飛んだ建築、日本庭園、借景美を堪能することができる**「臥龍山荘」**、日本三大鵜飼いの一つに数えられる**「鵜飼い」**、藩政時代から伝わり今でも秋の風物詩として河原で楽しまれている**「いもたき」**など独自の文化が育まれてきました

出典：大洲市立博物館所蔵資料

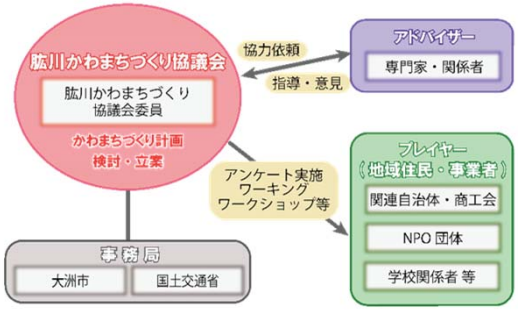
肱川にかつて存在した河港（大洲市誌）

肱川との関わりが深い観光拠点・イベント

地域住民・事業者と共に考えるかわまちづくり

かわまちづくりの主役となる「川を利用したい人・活用したい人」の意見を取り入れます

- 学識経験者、各種団体の代表者等で構成される「肱川かわまちづくり協議会」を設置するとともに、地域で活躍するプレイヤーの意見を取り入れるためにワークショップなどを開催しています



肱川かわまちづくり推進体制

地域で様々な活動をしているプレイヤーが参加

おおずプレミアムマルシェ
城下のMACHIBITO実行委員会
キタ・マネジメント（地域DMO）
YATSUGIしろまちゲストハウス
大洲高校カヌー部
肱川流域の環境と治水を考えるネットワーク
肱南肱北まちそだ手
大洲市地域おこし協力隊
国立大洲青少年交流の家

社会実験で「川床」「オープンデッキ」を設置し、住民・民間事業者からも肱川の利活用への期待が寄せられました

- 令和元年11月16日(土)、17日(日)に大洲市中心部で開かれる「城下のMACHIBITO」にあわせて「川床」「オープンデッキ」を仮設して社会実験を実施しました
- 社会実験箇所の利用者は、2日間で922名（川床292名、オープンデッキ630名）、イベント全体では昨年の1万人を超える1.3万人が来場しました

ワークショップの様子

アンケート結果（抜粋）

- 川を身近に感じることができる良い取り組みだと思う。肱川と言えば水害の話になることが多いと思うが、川があることの恵みについても知ることができると良い
- とてもゆったりとした時を過ごせた。よく来る川だが、水の上に座っているなんて不思議だった。水がきれいで静かで最高だった
- お客さん、出店者両者とも川辺でのオープンデッキ空間は気持ちの良いものと思うので、河川利用は良いと思う